

ON THE KEYBOARD

By Sanjeev Sinha

No. 10



サンジーヴ・シンハ

1973年インド・ラジャスターン州生まれ。インド工科大学で物理学修士課程と金融の修士課程を修了。人工知能研究のため1996年に来日。証券会社の数社に勤務後、現在、ブライズウォーターハウスクーパース株式会社ディレクターとして、日本とインドのビジネスの橋渡しに従事。英・日・ヒンディー語を駆使して、様々な異文化交流に尽力している。主な著書に「すごいインドーなぜグローバル人材が輩出するのか」（新潮新書）がある。

Japanese discover much good in the so-called 'lost two decades'

I've been in Japan for almost 20 years, and most of my stay here **overlaps** the period called the "lost two decades." This is a **buzzword** used to refer to Japan's two decades of low GDP growth after the **collapse of the asset-inflated bubble**.

However, I believe Japan gained more than it lost during this period as I have witnessed a significant improvement in the country's infrastructure.

Shinkansen lines have been extended north and south, open-

ing more beautiful and historic destinations. In big cities, transportation networks have seen great progress. And more **posh** residential areas and **state-of-the-art** office buildings have made an appearance with convenient connections to business as well as shopping districts.

In terms of soft power, the "cool Japan" phenomenon has **taken the world by storm**. The movement advanced global understanding of Japan's pop culture and helped the public rediscover

various aspects of Japan's attractiveness.

Also, **beneath** the wealth **generated by** unstoppable postwar hard work, people have come to realize the importance of **frugality** and family bonds. Younger generations reject the long-established macho-style, self-sacrificing work ethic and focus on enjoying greater flexibility in their lifestyles.

The lost two decades may have **triggered** a wave of bankruptcies and a marked increase in unem-

ployment, but I believe recent trends **more than make up for** these negative aspects.

I see these decades not as "lost" but as **stepping stones** leading to the creation of a foundation for a more mature, better Japanese society.



紙面から音声

このコーナーは、スマホやタブレットで英文音声を読めます。無料アプリ「朝日コネクト」をインストール。起動したら、日付選択で発行日（12月6日）に合わせ、英文の先頭にかざしてください。ダブルタップで全画面表示。詳細は <http://t.asahi.com/connect> へ。



App Store
からダウンロード



Google play
で手に入れよう

overlap(s)

～と重なる

buzzword

流行語

collapse...bubble

資産バブル（バブル経済）の崩壊

posh

豪華な、高級な

state-of-the-art

最新鋭の

In terms of

～に関して

taken(take)...storm

一世を風靡（ふうび）

した

beneath

～のすぐ下に

(be) generated by

～によって生じた

frugality

倹約、質素

trigger(ed)

～を引き起こした、もたらした

more...for

～を補って余りある

stepping stone(s)

足がかり

対訳 「失われた20年」には価値があるのです

私は20年近く日本に住んでいますが、滞在のほとんどが「失われた20年」と呼ばれる時期と重なります。これは、バブル経済崩壊後の20年間にわたり、日本のGDP（国内総生産）の伸びが低かった時期を示すのに用いられる、決まり文句です。

しかし、国内のインフラの大幅な改善を目の当たりにした私は、この時期に日本は失ったものよりも、多くのものを得たと思っています。

新幹線が南北に延長されたことで、美しく歴史的な、より多くの場所に行きやすくなりました。大都市では、交通網が大きく発展しました。また、ビジネス街やショッピング地区に便利にアクセスできる、たくさん的高级住宅地や最新式のオフィスビルが出現しました。

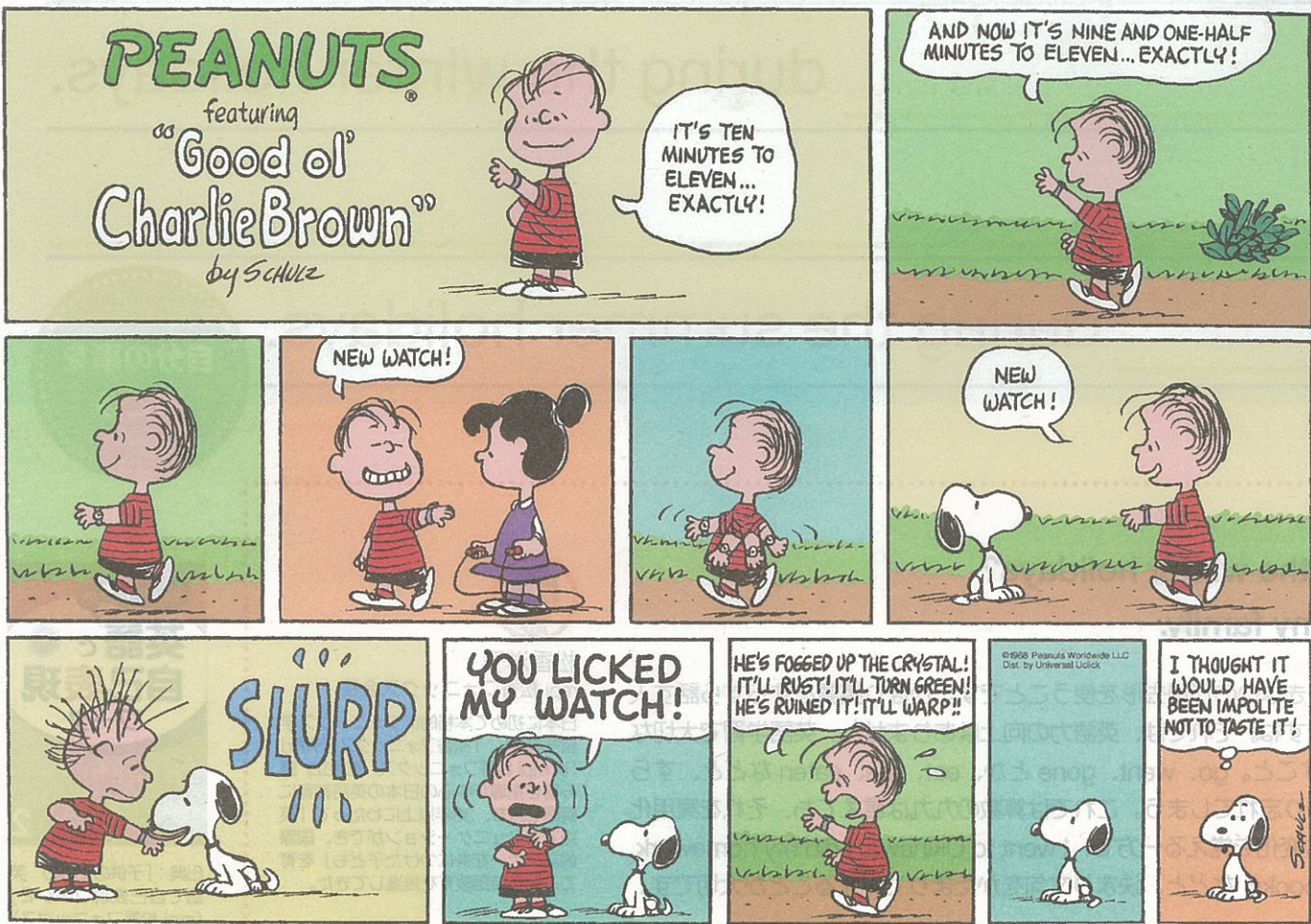
ソフトパワーに関しても、「クールジャパン」現象が、世界で脚光を浴びていま

す。この傾向は、日本のポップカルチャーに対する世界の理解を促進させ、国民が日本の魅力のさまざまな面を再発見するのに、一役買いました。

また、戦後のたゆまない勤労が生み出した富の下で、人々は倹約と家族の絆の大切さに気づくようになりました。若い世代は、長い間確立されてきた、勇ましくて自己犠牲的な労働観を拒否し、自分たちのライフスタイルに、より柔軟性を持たせようとしています。

失われた20年は、相次ぐ倒産と失業率の著しい悪化を引き起こしたかもしれませんが。しかし近年の動向により、こうしたマイナス面を補っても余るほどのものを得ている、と私は思うのです。

この20年間は「失われた」ものではありません。より成熟した、より良い日本社会の基礎を生み出す、足がかりなのだとは私は捉えています。（訳 井手知子）



腕時計

[左コマから右へ]

- 1 11時の10分前...ちょうどだ！
- 2 そして今、11時の9分30秒前...きっかり！
- 3 ...
- 4 新品の腕時計だよ！
- 5 ...
- 6 おニューの腕時計なんだ！
- 7 べろり！
- 8 ボクの腕時計をなめたな！
- 9 ガラスが曇っちゃったよ！ さびるじゃないか！ 色が緑に変わって！ 台無しだ！ 変形しちゃうよ！！
- 10 ...
- 11 (味見しないと失礼になって、思ったんだけどな！)

(訳: 夕)